

令和4年度 学校関係者評価報告書

佐用町立上津中学校

1 中期的な学校運営の目標・方針

- 学校教育目標「自ら学ぶ生徒、こころ豊かな生徒、たくましく生きる生徒の育成」の具現化を図る。
- ①一人一人の生徒を大切に学習指導の実践
 - ②心豊かな生徒の育成
 - ③保護者・地域に信頼される安心・安全な学校づくり
 - ④特色ある教育活動の充実

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 学校評価の実施方法
- ・アンケート(生徒、保護者、職員)、生活実態調査、体育祭、オープンスクール(音楽発表会・PTA親子講演会)など行事の反省をもとに、評価委員会で達成状況、改善の方策を検討し、学校関係者評価委員会に提示する。
 - ⇒ 実態を把握するため適宜アンケート調査や聞き取りを実施し、適切な外部評価を得ている。コロナ禍で生活アンケート等から見えてくる生徒の実態を正確に把握し、その分析結果をもとに、未然防止、早期発見、指導の徹底・充実に努め、個に応じた支援と安心安全な学校運営に努めて欲しい。

2 年度の重点目標

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| (1)基礎・基本の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等の育成 | (2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ときめ細かな指導の充実 |
| (3)体験的な学習、問題(課題)解決的な学習を積極的に導入 | (4) 自他の生命を尊重し、「命を輝かせる」教育の実践 |
| (5)自主的に心通うあいさつができる生徒の育成 | (6)学校の教育活動全体を通じた道徳教育・人権教育の充実 |
| (7)生徒指導・交通安全指導の充実 | (8)美化活動の充実、教育環境の整備 |
| (9)学校からの情報発信、地域への協力、地域の教育力の導入 | (10)ひまわり栽培をはじめとする体験活動の充実 |
| (11)小規模校の特性を生かした縦割り班活動の充実 | (12)教育活動全体を通してのキャリア教育の充実 |

5 総合的な学校関係者評価

- まだまだ新型コロナウイルス感染症予防のため色々と制限のある学校生活だが、生徒の安全を第1に考え学校運営を行ったことは良かった。また、その中でも生徒が充実感を得られるような教育活動を推進できた。
- アンケートから、保護者・地域との連携の重要性を感じる事ができた。今の中学校の生徒がコロナ禍の学校生活しか知らないことを改めて知り、地域の私たちが出来ることを考えていかなければならないと感じた。
- 不登校や不登校傾向のある生徒に対し、担任団、そして学校全体で共通理解して対応していることはとても良いことだと思う。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門の方に協力いただいているので、生徒・保護者にとっても助かるのではないかと。一人一人を大切に学習指導が、よく成されている。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

6 評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実 仲間とともに助け合う学級づくりの展開 ・明るく元気なあいさつができる生徒の育成 ・楽しく、居場所のある学級 ・感染予防対策をふまえた新しい生活様式の推進 心に響く道徳教育・人権教育の充実	A	○不登校また不登校傾向のある生徒や保護者に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、不登校対策委員会やケース会議を持ちながら対応した。担任を中心に、保護者と連絡を密に取りながら毎日の生徒の動静を確認し対応にあたってきた。今後も生徒や保護者の悩みに寄り添いながら継続的な支援体制を構築する必要がある。 ○配慮を要する生徒や保護者に対して、家庭訪問や電話連絡、ケースによっては管理職面談など、友人関係や家庭の問題、学業や進路指導といった、個々の悩みに寄り添ったきめ細かな生徒指導・支援の充実を図った。学校通信「上津ヶ丘」や学年通信、家庭訪問等・電話連絡により、保護者への情報発信を密にし、生徒理解の充実に努めた。 ○在籍する生徒はコロナ禍の学校生活しか知らない。生徒が日常的なストレスを抱えている場合もあり、授業記録簿や生徒指導日誌、校務支援ソフトの活用や職員会議で、気になる生徒の様子について全職員で共通理解を行い、生徒指導に当たった。また、生徒会主導で球技大会を計画をし、閉塞的な気分を和らげるよう努めた。 ○「特別の教科 道徳」では、県の実践研究の指定を受け、授業実践と南光小学校との合同研修を継続し、年間指導計画に基づいて「対話のある授業」の積み上げを意欲的に行った。	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を続け、生徒個々の悩みに寄り添った支援を続けて欲しい。 ○不登校また、不登校傾向のある生徒・保護者に対して学校も居場所のある学級づくりに継続して努力して欲しい。 ○訪問時には、駐車場で「こんにちは」と生徒たちの挨拶が聞こえ、美しく飾られたお花や清掃の行き届いた校舎が迎えてくれる。引き続き、生徒が楽しく過ごせる学校環境づくりを行って欲しい。 ○学校通信、学年通信を通して、学習の様子や生徒の様子などが保護者や地域に伝わるよう取り組みを進めている。
教育課程	学習指導の工夫・改善に努め、個に応じた指導の充実 ・自ら学ぶ意欲の育成 ・わかる授業の創造 ・基礎・基本の定着と身についた知識を表現し、活用できる力の育成 一人一人を見つめ育てる特別支援教育の充実 ・一人一人の教育的ニーズの把握と適切な就学指導の推進 ・生徒指導・交通安全指導の充実 心身の調和のとれた発達を目指す体験活動の充実 ・ひまわり栽培、ボランティア活動の充実 ・美化活動の充実、教育環境の整備	A	○新学習システムを活用し、少人数授業や複数指導を展開することで、一人一人のつまずきや個々のニーズに応じた支援・指導を行った。教科担任だけでなく複数の教師の視点から、生徒の学習の理解度や定着度を把握し、支援をすすめてきた。 ○毎週木・金曜日を宿題清算日とし、家庭学習の定着や基礎・基本事項の確認を図った。宿題を忘れる生徒の固定化など生徒への根気強い指導が課題であり、保護者との連携体制も構築する必要がある。 ○特別支援学級には4名の生徒が在籍している。進路実現をめざして、教科毎に交流学級との学習、支援学級での学習のどちらがより効果的なのかを考え取り組んできた。同室授業では、複数指導で多くの職員が関わることにより、生徒理解と効果的な支援の充実に努めた。 ○職員やPTA・生徒会による登下校時のあいさつ運動や交通安全指導を継続的に行った。今後も、生徒会による自主的な活動に取り組ませ、さらに活性化させたい。 ○本年度も、全校生徒による「ひまわり栽培」に継続的に取り組んだ。本年度は3年ぶりにひまわり畑での観光案内を希望生徒を中心に行うことができた。作業では、3年生がリーダーシップを発揮しながら、全ての生徒が意欲的に取り組み、郷土愛や勤労、奉仕の精神、自然愛護等「豊かな心の育成」を図ることができた。また、今年度は、小学校との連携を進め、合同の植栽作業の回数を増やし計画していたが、天候不順のため昨年度と同程度の交流となった。今後は、生徒数の減少を見据え、地域の協力を得ながら活動を進める必要がある。	○少人数授業や複数指導など、生徒の実態に応じた丁寧な指導がなされている。経験の浅い教員も多いが、生徒の理解度を確認し、授業改善を進め、わかりやすい授業と基礎・基本事項の定着をめざして欲しい。 ○登下校時等、歩道で小学生を避けようとして車道に出る生徒がいた。特に自転車指導などの交通安全面については、更に指導の徹底を図ってほしい。 ○各行事で見た上津中生徒の、明るさ・真面目さ・フレンドリーさが印象に残っている。体育祭では、教員もいっしょに参加しての競技等、学校の温かい雰囲気を感じた。 ○「ひまわり栽培」は本校の特徴的な活動でもあり、地域の特色を生かした教育に取り組んでいる。本年度は規模は小さいながらも、ひまわりボランティアも実施することができたのは良かった。郷土愛を育成し故郷の活性化など、地域の将来に関心を持つ生徒を育成して欲しい。
課題教育	今日的課題に対応した教育の推進 ・日本の文化や伝統を大切にする態度の育成と多文化理解 ・福祉の心を育て、体験活動等を通しての実践的意欲や態度の育成 ・情報モラルの育成、ICT活用の推進 ・体験活動を重視した環境教育の推進 ・社会的自立に向けたキャリア教育の推進	B	○コロナ感染予防対策により制限されていた活動が少しずつ戻りつつある。しかし、難しい面も依然として残っており、今後も文科省や県教委の方針を遵守して、安全な部活動の実施を考えていきたい。 ○道徳や学活、部活動や体育の授業など学校生活全般において、礼儀・作法の大切さや相手を尊重する心の育成を重点に置いて指導を行った。 ○本年度もインターネットやスマホの危険性について、生徒と保護者を対象に専門機関による講演会を実施した。毎年最新の情報提供がなされるため、現状に即した実効性のある講演会で、保護者の参加率も高い。次年度も引き続き実施する運びとなっている。 ○GIGAスクール構想に伴う1人1台のタブレット端末が整備された。端末を活用した学習ドリルの全町での採用もあり、ある程度活用を進めることができた。従来の学習法の良さとお合わせ効果的に取り入れる方法を模索していきたい。今後、ICT機器の効果的な活用方法について職員研修を重ねるとともに、目的に立ち返った学習方法の充実に力を入れていきたい。	○スマホやインターネットの危険から生徒を守るための講演会は保護者も交え今後も継続して実施して欲しい。 ○授業の形がICTの導入で大きく変わっていく中、ICT研修を引き続き行い活用を図って欲しい。また、新しいことも必要だが、本年度まで受けてきた道徳研修を引き続き行って欲しい。 ○コロナ禍において、体験活動を含めた多くの活動を実施できたのは良かった。修学旅行も行先は違えど、3年生全員が参加でき、生徒の心に残るものとなったと思う。

・小中連携教育の推進

○2年生トライやる・ウィークであるが、本年度は従来の職場体験型の活動を実施することができた。今後も、この活動を核に、地域に根ざした体験学習を工夫し、将来の夢や希望に向かって、自立して生きていくために必要な資質や能力を育成するキャリア教育を推進する。

○南光小との連携教育をさらに広げ、教育課程の色々な場面で小中連携を図って欲しい。